令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）【３年生】　　３１４　練馬区立豊渓中学校

	課題分析	授業改善策
国語	ワーク等の課題に丁寧に取り組む姿や毎時間の授業を大切にする姿勢が見られるようになってきた。一方で、学習した内容を活用する力や自分の力として定着させることには課題がある。「読むこと」では文章の内容や筆者の考えを正確に捉えることを苦手とする生徒がおり、「書くこと」では設問の意図や条件を理解した上で、自分の考えを、根拠をもって表現する力に課題が見られる。	単元ごとの振り返りや確認問題を通して、生徒自身が学習内容の定着を確認できる場面を設定する。また、文章を読む際には根拠に着目して内容を整理する活動を多く取り入れ、記述問題では設問で求められていることを確実に理解した上で表現する力を育成する。さらに、他者の考えと比較しながら自分の考えを深める活動を取り入れ、主体的に学ぶ姿勢と表現力の向上を図る。
社会	・授業ごとの学習課題に対して積極的に取り組む生徒が増えたが、まとまった範囲の知識の定着に課題がある。 ・基礎的な知識・技能を活用し、思考・判断・表現することを苦手とする生徒が一定数いる。	・単元ごとの基礎知識の理解を確認する場面を計画的に設定し、系統的な知識の定着を図る。 ・発言や意見をまとめる際に、知識や技能を活用する場面を設定し、根拠を示せるように個に応じた指 導を適宜行う。
数学	・数学に自信がなく、意欲的に取り組むことができない生徒がいる。一方で、数学を得意科目とし積極的に取り組む生徒もおり、二極化が進んでいる。 ・入試を意識し、家庭学習に力を入れる生徒が増えてきた。	・少人数のクラス分けの回数を増やし、学習に対する刺激を与える。 ・授業内でも入試を意識した問題等を取り上げる。 ・小テストを活用し、学習の定着を細かく確認する。
理科	・一般的な生徒の多くは、例年通り理科の楽しさや探究の喜びに価値を見いだしている。しかし例年、学力上位層の一部には、科学的な探究活動そのものよりも高得点を取ることに喜びや興味を示す「点数至上主義」の生徒が存在する。点数という結果のみに終始せず、科学的に探究する本質的な楽しさをいかに実感させるかが課題である。 ・レポート作成等の際、課題を映像ごと AI に分析させ、その出力を理解しようとせずそのまま書き写して提出する生徒が存在する。自ら吟味することなく「ただ提出すること」だけに力を注ぐという、深い理解や思考を伴わない表面的な提出作業の形骸化が散見される。 ・定期試験に向け、問題集をこなせば高得点がとれる仕組み（努力が成果に結びつく設計）を整えているものの、全体として生徒の取り組む姿勢は顕著ではない。活用度合には、例年通り計画的に取り組む層と、試験当日に初めて問題に触れる未着手層との顕著な二極化が見られる。日々の学習習慣を確立させ、学習のプロセスを重視する主体的な学習態度をいかに育成していくかが課題である。	・多くの生徒は理科の探究に価値を見いだすが、上位層の一部に得点至上主義の傾向があり、本質的な楽しさを実感させることが課題である。改善策として、発表や演習を増やし基礎学力を定着させる。上位層には高度な学習で探究心を伸ばし、意欲低下層には学ぶ意義の提示やスモールステップで支援する。 ・AI 利用の課題に対し、レポート作成時において生成 AI の解答を単に模倣・転記させるのではなく参考資料として位置づける。その上で、「どこまでが AI の提示した答えであり、どこからが自分のオリジナルであるか」を明確に区別して記述させる指導を徹底し、主体的思考と自己評価を促す。 ・本校独自の学習支援体制「Ｋ中Ｂ」や「Ｋ中ゼミ」の提供を今後も継続し、家庭学習の習慣化を全校体制で包括的に支援し続ける。あわせて、授業内では「仮説実験授業」を継続して実施することにより、生徒に学ぶ喜びや学習する楽しさを体験させ、主体的に学びに向かう態度を全般的に育成していく。

音楽	・歌唱等の活動に意欲的に取り組む生徒が増えている一方、自分の思いや意図を表現に生かしたり、よりよい表現を主体的に工夫したりすることに課題がある。 ・音楽を構成する基礎的な要素についての知識は身に付いてきているが、それらを関連付けて曲想や音楽の特徴を捉え、自分の考えを説明することが十分でない生徒がいる。 ・鑑賞では、感じ取ったことを表現することはできても、音楽の要素や構造を根拠として、自分の考えを深めたり、他者の考えと比較したりすることに課題がある。	・歌唱や器楽では、曲想や歌詞の内容、音楽を構成する要素との関わりを考えさせ、「どのように表現したいか」を明確にして、表現を試行・改善する活動を充実させる。 ・ワークシートや ICT 機器等を活用し、音楽の要素や構造を根拠として、自分の考えを言葉で説明する活動を取り入れる。 ・鑑賞では、感じたことだけでなく「なぜそう感じたのか」を音楽的な根拠とともに考えさせ、他者との意見交流を通して多様な音楽の捉え方に気付かせる。
美術	・想像の世界や空想の世界を表現するときにアイデアが浮かばず、時間を要する生徒が見られる。 ・絵画では苦手意識のある生徒がおり、特に光と影を捉えて立体感や空間を表現することが難しい。	・多様な作品群に触れさせ、作者の意図や工夫に気付かせることで生徒自身の表現の幅を広げさせる。 ・基礎的な技能の振り返りを行い、それを作品にどう取り入れるか参考作品を掲示し、机間指導で個別に対応する。
保健体育	・授業に対して積極的に取り組む生徒が多い一方で、あまり積極的に取り組めない生徒も一定数いる。 ・全身持久力や筋力等、全体的な体力向上が必要である。	・スモールステップで段階を踏みながら授業を行っていく。互いに励ましや賞賛の声かけを意識させる。 ・授業の中で筋力トレーニングやランニング等を取り入れるとともに、単元の導入で体力向上の要素を含んだ活動を取り入れる。
技術・家庭	【技術】 ・実習や実験に前向きに取り組んでいる。 ・体験に伴った考え方に差があるため、苦手意識をもつ生徒もいるので、個に応じた対策が必要である。 【家庭科】 ・学習したことを自分の将来の生活と結び付けて考えることに課題がある。 ・複数の情報から必要なものを選び、適切に判断することに課題がある。 ・学習した内容を振り返り、自分の生活に生かそうとする意識に課題がある。	【技術】 ・グループ学習により、生徒相互の学び合い活動を取り入れている。また過去の生徒作品を提示することで、製作のヒントを与え、製作にむけて意欲を引き出している。 【家庭科】 ・自立した生活を見据えた課題を設定し、実生活への活用を考える活動を行う。 ・具体的な事例を比較・検討し根拠をもって選択する活動を取り入れる。 ・学習後の振り返りを充実させ、今後の生活で実践できることを具体化する。
外国語（英語）	・授業に積極的に取り組むことができ、新出文法や単語の習得に向けても努力をしている。一方で、中１、中２でつまずいている生徒もおり、作文や長文読解の際にあきらめてしまう。 ・即興で自分の意見をまとめて表現することを苦手とする生徒が多い。 ・振り返りシートへの記入内容が具体的になってきた。	・学習した内容を用いた表出活動の場面を多く設定し、書く、話す機会を増やす。 ・中１、中２の学習内容の復習問題への取り組みを行う。 ・フレーズの音読練習をすることで文法事項や単語の定着がスムーズになるため、帯活動として取り組む。